

みらいへど

JA全農えひめ情報

■新春企画／諏訪県本部長インタビュー

担い手とともに活力ある愛媛農業を！

■JA直売所めぐり

総集編～中予Ⅰ～

1

2014・January



▶ 昨年の様子



えひめみかん祭り

(松山市)



愛媛県は、温州みかんに伊予柑などの中晩柑類を加えた柑橘類全体の収穫量が、昭和49年から平成23年産まで少なくとも38年連続日本一、また柑橘類の品種数でも、愛媛県は42(温州みかん1+中晩柑類41)で日本一(愛媛県発表)。1年中いろいろな柑橘を出荷し、味わっていただくことができるのが、愛媛の特徴・魅力です。

そんな愛媛県ならではのイベントの一つが「えひめみかん祭り」です。愛媛産柑橘のPR・消費拡大と果樹農業の振興を目的に、愛媛県果樹同志会とJAA全農えひめ、愛媛県などが消費者との交流イベントとして毎年開催し今年で36回目。会場は毎年大勢の方で賑わいを見せます。

今回は、1月25日(土)〜26日(日)の2日間、「つくる人からたべる人へ みかんのラブレター」をテーマに、松山市のいよてつ高島屋特設会場で行われます。果樹同志会のメンバーと愛媛いよかん大使らが参加し、県内各地から選拔された果実コンクール出品果実の予約販売、普段味わうことのできない柑橘品種の展示や試食販売、みかんを丸ごと使った「みかん餅つき」、ポンジュース蛇口など多彩なイベントで会場を盛り上げながら、今年も「柑橘王国えひめ」をアピールしていきます。

めぐり〜ど

January 2014

CONTENTS

全農グループの経営理念

私たち全農グループは、
生産者と消費者を安心して結ぶ
懸け橋になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

今月の表紙



子どもたちは農閑期の田んぼで元気よく
風揚げに羽根つきを楽しんでいます。
隣の畑ではブロッコリーにカリフラワー
にと、冬野菜の収穫にいそむ農家さん。
晴れ着姿で歩いているのは、年始のご挨拶
の帰り道？ それともふるさと帰りに
前倒しの成人式へ出かける新成人かな？
それぞれの新しい年（うま）年の幕開
けです。馬が気持ちよくさっそうと駆け
るような、いい年になりますように。

●表紙：新春風景
はら ふみ(イラストレーター)

※『めぐり〜ど』は、「愛媛農業（Agriculture）」を「リード（Lead）
する」という意味と「心をつなげる（Agreed）」という意味を
込めています。

農の風景Vol.157

えひめみかん祭り

（松山市）

2

会長年頭あいさつ

JA全農えひめ 運営委員会会長 岡本 健治

4

〈新春企画〉諏訪県本部長インタビュー

担い手とともに活力ある愛媛農業を！

9

THE・ねっとわーく

11

統計BOX

12

ふるさと ESSAY VOL.225

星の王子さま〜本当にたいせつなもの〜

中村 和憲さん

14

TOPIC NEWS

17

なんでもBOX

18

JAふるさと自慢Vol.157「直売所めぐり」

〈総集編 中予I〉

〜JA松山市・JAえひめ中央〜

20

READERS通信

NOW NOW COOKING

〈今月の素材〉キウイフルーツ

JA全農えひめ

ホームページ

<http://www.eh.zennoh.or.jp>

■JA全農えひめ「えひめの食」企画

<http://www.eh.zennoh.or.jp/ehimenosyoku/>

※「えひめの食」では、旬の農産物情報を発信しています。

◆(株)えひめ飲料

<http://www.ehime-inryo.co.jp>

◆JAえひめアイパックス(株)

<http://www.iyokkora.jp/>

◆JAえひめ物流(株)

<http://www.jat-ehime.co.jp/>

◆JAえひめフレッシュフーズ(株)

<http://fresh-ranran.jp/>

◆(株)ひめライス

<http://www.himerice.jp/>

◆JAえひめエネルギー(株)

<http://www.ja-ehimeene.co.jp>

会長年頭あいさつ

新年を迎えて



全国農業協同組合連合会愛媛県本部
運営委員会 会長

岡本 健治

新年を迎えるにあたり謹んでごあいさつ申し上げます。組合員ならびに読者の皆様におかれましては、清々しい新春を迎えられたこととお喜び申し上げます。

また、平素は、J A全農えひめの事業各般にわたり格別のご指導・ご協力をたまわり、厚くお礼申し上げます。

さて、日本経済は、「大胆な金融政策」、「機動的な財政政策」、「民間投資を喚起する成長戦略」という「3本の矢」を柱に、デフレ経済や成長促進をめざすアベノミクスが進められ、回復傾向にあるといわれておりますが、本年は4月の消費税増税に伴う駆け込み需要や増税後の反動など、そ

の影響が懸念材料となっております。

また、国内農業では、高齢化・担い手不足による生産基盤縮小が一層深刻となっております。さらには消費者の低価格志向や安価な輸入農畜産物の増加に加え、円安の影響による生産資材価格の高止まりも相まって、農家の経営は厳しい状況が続いております。

一方、日本農業やくらしを脅かすTPP（環太平洋連携協定）につきましては、昨年12月7日からシンガポールで開催された閣僚会合で年内妥結は断念したものの、閣僚会合の1月開催が確認されており、緊迫した状況が続いております。JAグループでは、引き続き農林漁業団体や消費者団体と連携しながら、断固反対の取り組み・運動を展開してまいります。

また、昨年11月26日、政府は農林水産業・地域の活力創造本部を開き、経営所得安定対策（戸別所得補償制度）や米政策見直しの全体像を決めました。飼料用米や転作作物への助成拡充で作付転換を促し、主食用米の需給を調整すること等が打ち出されており、JAグループによる需給調整機能の発揮など、組合員の信頼・期待に応える、持続可能な農業・農村の実現にむけた取り組みが重要となっております。

全農では、平成25年度からの「3か年計画」において、「国産農畜産物の販売力強化」「元気な産地づくりと地域のくらしへの貢献」などに重点をおいた施策を展開しております。

愛媛県本部におきましても、昨年4月から農家所得の向上と産地基盤の強化に向け、販売を起点としたトータル戦略として「トータルアグリッド事業」をスタートし、作物別にビジネスモデル品目を設定した取り組みなどを通じ、担い手・JA・県本部が一体となって販売力の強化と担い手支援に取り組んでおります。本年の取り組みとしては、引き続きJA・生産現場の声・要望を踏まえ、担い手の育成や法人化の支援、産地振興の核となるTACの資質向上などの取り組みをさらに強化することとしております。

また、各事業においてはグループ会社と連携した中で、会員JA・組合員の皆様から求められている組織の役割を発揮し、愛媛農業のたしかな未来を切り拓いてまいります。

最後になりましたが、本年も会員・生産者の皆様の一層のご指導・ご支援をお願い申し上げ、新年のごあいさついたします。

新春企画

諏訪県本部長インタビュー

担い手とともに 活力ある愛媛農業を！



J A全農えひめ 県本部長
諏訪 玄
す わ しずか

「トータルアグリッド事業」で
担い手支援を実践中！

編集部 新年あけましておめでとうございます。

平成26年は、年明け早々にTPP交渉が大詰めを迎えるとともに、昨年11月に打ち出された経営安定対策や米政策の見直しなどがスタートするなど、農業・農村の今後にかかわる重要な年となります。

本日は、諏訪県本部長から、「トータルアグリッド事業」の実践状況や今後の取り組みを中心に、J A全農えひめの平成26年の取り組み方向をお聞きたいと思います。

まず、2年目を迎える「3か年計画」の取り組み状況についてお聞かせください。

諏訪 全農は、「元気な産地づくりと地域のくらしへの貢献」、「国産農畜産物の販売

力強化」、「海外事業の積極展開」を3本柱として、平成25年度から「3か年計画」に取り組んでいます。

これを踏まえ、愛媛県本部の「3か年計画」では、9年間の「生産・販売・購買一体事業」を進化させた「トータルアグリド事業」による農家所得の向上と産地基盤の強化、生活関連事業を通じた「地域の元気づくりとくらしへの貢献」、営農とくらしを守る「JA総合物流」を柱に事業を展開しているところです。

営農事業はのちほど詳しくふれますが、生活事業については、利便性向上につながる「JAくらしの宅配便」が昨年11月全JAでシステム導入が完了し、会員確保と拡



▲TAC研修を通じて担い手への対応強化

大を進めているところです。中山間地域の多い愛媛県では、買い物弱者支援など安心して暮らせる地域づくりへの貢献が重要であり、店舗事業ではYショップや移動購買車、石油事業はセルフSSなど事業スタイルの見直しを行いながら進めることにしています。

編集部 本日のテーマである「トータルアグリド事業」の取り組み状況は？

諏訪 25年度から27年度まで、販売に重点を置いたトータル戦略として作物別にビジネスモデル品目を設定し、販売力強化により担い手への支援を進めています。

ビジネスモデル展開では、作物別に面積や生産量、企画販売等の目標を立てて取り組みを進めており、米の「にこまる」の集荷、「紅まどんな」など柑橘オリジナル品種やきゅうり・里芋など野菜の重点品目は作付拡大や企画販売などで着実に成果が出てきています。

こうした取り組みを推進するため、「地域営農・担い手支援対策要領」を設定し、品目別の支援対策要領をあわせて25年度は総額3億2千万円余りの財源で、地域の核となる担い手への生産コスト低減の提案と助成のほか、耕作放棄地対策に取り組む担い手や新品種・技術導入実証、生産振興対策として生産・販売資材への助成を実施しています。このうち、「地域営農・担い手支援対策要領」では、遊休農地や大規模担

い手・重点作物対策、新技術・新品種実証圃対策などで、総面積148haを対象に助成を行っています。

また、高品質生産につなげるための生産資材の供給については、TAC等の取り組みを通じて、これまで以上に部門間の連携・参画意識が強まってきたと感じています。

企画販売と直販を強化し 農家所得確保と生産拡大

編集部 販売力強化の取り組みについて、具体的にお聞かせください。

諏訪 愛媛県本部では、果実と野菜で24年度は約400億円の販売実績ですが、そのうち企画販売と直販の金額は、果実3%・野菜は6%、全体では4%の15億円ほどですが、これを将来的には全体の10%・40億円に拡大したいと考えています。一気に拡大とはいかないので、当面27年度17・5億円を目標に取り組みを進めています。

市場等を通じJA全農えひめが主体的に販売先・業務加工需要等と取り組む企画販売や直販事業は、安定的な価格で農家所得の確保につなげると同時に、安心して生産拡大を進めていただくことがねらいです。こうした考え方や取り組み状況・成果の「見える化」がこれまで十分とは言えませんでしたので、機会があるごとに部会や反省会等で説明・アピールをしていきたいと考え

ています。

編集部 海外事業の展開についてはいかがですか？

諏訪 25年度は、愛媛県の愛のくにえひめ営業本部と連携して台湾を中心に柑橘を輸出し、前年の2倍近くの実績をあげました。愛媛の知名度向上や安心・安全の受け入れ体制づくりなどの課題をクリアしながら、今後は農家所得の確保に向けて下位等級品も含めて取り組む必要があると考えています。

「にこまる」の拡大とブランド化に向けて

編集部 品目別にこれまでの取り組みと今後の方向をお聞きたいと思います。

諏訪 小麦では、米の「にこまる」をビジネスモデル品目としていますが、25年産集荷量が800トンの目標に対して11月末現在で981トンとなっています。高温耐性品種で1等比率もヒノヒカリに比べて30%程度高く、26年産以降も拡大する方向です。生産拡大に合わせて今後は、ひめライスを核として、高品質良食味のブランド米として消費者認知度向上に取り組めます。

米は過剰基調で厳しい販売となっていますが、24年産から買い取り販売に取り組んで集荷率向上につなげています。ひめライスのブランド力を活かして中四国地区の他県に負けない価格の設定・「見える化」と

ともに、昨年から「JA総合物流」等を通じた庭先集荷の強化で、さらなる集荷をめざします。

また、飼料用米の生産拡大方向が打ち出された中で、26年度は新たに飼料用米の品種特性等の実証を追加し普及に取り組めます。生産量の拡大に伴い広域での流通・販売など全農グループの機能発揮に向けて組織討議も踏まえ、早急に対応したいと考えています。

愛媛オリジナル柑橘のブランド確立と生産拡大

編集部 果実についてはいかがですか？

諏訪 ビジネスモデルとして、愛媛オリジナル品種の「甘平」「紅まどんな」の生産・販売拡大を進めており、特に愛媛ブランドの確立に向けて、モデル園地を設置した中で高品質安定生産の栽培確立と普及、選果目あわせ会を開催して品格・価格に見合った商品の提供、消費宣伝活動に取り組んでいます。

栽培面積は両品種とも前年を上回っており、今後は紅まどんなの雨よけ施設化の推進等高品質生産に向けた取り組みが重要です。

JA全農えひめを通じた企画販売は徐々に販売実績を積み重ねており、営業面での信頼も高まってきており、その体制も徐々に整いつつあると感じています。

里芋「伊予美人」は東予地区で面積拡大

編集部 野菜の取り組みについては？

諏訪 愛媛チームとしての販売強化を進めるため、県内で広く栽培され、取扱量が多い重要品目のきゅうり・いちご、また東予地域をモデルとした里芋「伊予美人」をビジネスモデル品目に設定し、JAと一体となった中で、生産拡大と高品質安定生産、県域での品質統一化、ブランド化等に取り組んでいます。

生産面では、里芋がJAうまを除く東予地区3JAで7・6haの増反につなげました。きゅうりは上期で面積は3・1ha新たに拡大したものの、高齢化によるリタイア・減少分の方が多く、「トータルアグリード事業」によって産地を維持するのがやっとの状況です。いちごについては初期投資も大きく新規



拡大が厳しい状況です。数量が伸びない中で、今年から県内統一規格を270gに軽量化し、kg単価向上と数量確保に取り組んでいます。

企画販売は、夏秋野菜で過去に例のない猛暑・干ばつの影響で出荷量が激減する時期もありましたが愛媛チームとしての継続出荷に取り組み、61企画の計画に対して72企画を実施するなど積極的な提案・実施に取り組んでいます。

JAと担い手を結ぶTAC のレベルアップめざす

編集部 地域の担い手対応の核となるTACの取り組みについてはいかがですか？
諏訪 TACは、産地基盤の維持・拡大を進めていく



▲25年12月13日TACトップセミナー

うえて、JAと担い手を結ぶ重要な役割を果たします。県内ではTACとしての活動が5年経過し、現在県内で8JA約60人が活

動しており、県内では営農指導員との兼務で担い手を選定し出向く営農を実践していますが、専任の要員を配置しターゲットを絞って実践しているところも始めている。情報の受発信・相談への対応や提案等を通じて農家との結びつき・信頼関係を強化することで、結果としてJA結集につながり、地域を守るJAの役割をしっかりと果たすことができます。

JAトップの理解・認識がTACにも反映され資質向上にもつながっていく、事業改善につながりJAへの結集にもつながります。また、JAの月例会にはJA全農えひめの県域TACが出席し情報提供等を通じてレベルアップが図られており、25年度も全国のTACパワーアップ大会で愛媛県から2年連続でJA表彰・TAC表彰の受賞につながっています。農家からも「JAから来てくれるようになった」と好評で、徐々に信頼も得てきています。

経営指導も含めた提案型のTACへのステップアップを図り、生産者とJAの結びつきを強める潤滑油としてのさらなる役割発揮が求められます。

編集部 担い手との連携、産地基盤維持に向けて、TACの育成・強化が重要ですね。

諏訪 昨年12月にTACトップセミナーを初めて開催し、県内外の優良事例を紹介することで、JA役員への理解醸成を行いました。26年度は、TACが担い手への戸別

生産性向上と基盤維持、 顔の見える販売めざす

編集部 畜産事業の取り組みについてお聞きます。

諏訪 「トータルアグリード事業」として、肉豚20万頭体制、肉牛5,550頭の生産基盤の維持とともに、生産性向上・コスト低減、「ふれ愛・媛ボーク」と伊予牛「絹の味」の販売強化に取り組み中です。販売面では、企業ブレゼンの開催、SPレディや「ひめとんボーズ」など生産者と一体となった消費宣伝活動・販促提案を通じて、松山生協「うまいよ牛」のような量販店と結びついたマッチング販売など顔の見える販売強化を進めています。

特に養豚については、「ふれ愛・媛ボーク」認定農場を明確化した中で経営面の支援策

提案、課題解決と経営改善を実行するための研修、技術面の人材育成等の研修会を月別に実施し、人材育成とレベルアップに向けた研修活動の充実に取り組めます。

また、生産・販売・購買部門だけでなく、26年度は県信連の担い手金融リーダー等との連携も呼びかけて、JAグループの総合事業を発揮して、最適な経営投資計画など経営指導も含め、トータルアグリード事業での取り組み体制を確立したいと考えています。

の拡充、生産性・品質向上に向けた多産系ハイコープ豚の導入などを進めているところです。

配合飼料価格の高止まりなど、畜産経営が厳しい中で、グループ会社と一体となって農家の経営安定に向けた取り組み・支援を進めるとともに、26年度からの飼料用米の生産拡大に対応するため、耕畜連携をさらに図っていくことが重要だと考えます。

担い手の確保・育成に向け積極的な支援を！

編集部 初年度の取り組み等を踏まえ、26年の展開方向についてどう考えていますか？

諏訪 昨年、各JAで開催した「一日JA全農えひめ」でも、販売力強化、生産資材コスト低減とともに、担い手の確保・産地維持に向けてJAと一体となった取り組みの要望・期待の声が多く出されました。高齢化の進展に加え、26年度からの水田農業政策の見直し等の情勢も踏まえると、地域農業を支える担い手づくりを早急に進めなければなりません。

JA全農えひめでは、25年度の取り組みに加え、26年度から新たに担い手の確保・育成に向け積極的な支援に取り組みます。

詳細は今後詰めていきますが、全農として自らが農場を持つのではなく、JAが地



▲「ふれ愛・媛ポーク」をPRする生産者集団「ひめとんボーイズ」

域営農ビジョンに基づき取り組む新規産地づくりや法人設立等について、JA全農えひめとしての出資や資材の供給などソフト面での支援強化等を検討していきます。

また、JAグループに理解があり、資本力のある企業との連携・コラボも含めて着実に地域の担い手づくりを進めたいと考えています。

編集部 最後に、新年にあたっての抱負をお願いします。

諏訪 近年、農産物流通は需給バランスがとれてきて売り手市場の傾向にあると思います。その中で有利販売するには、愛媛のブランド力をいかに発揮するか、そのため

に農家・産地が安定的に生産・出荷できる体制を作っていくかにかかっています。

「トータルアグリード事業」の主旨に基づき、しっかりした産地基盤・担い手を確保できるよう、JA全農えひめとして生産振興対策と担い手づくりを積極的に支援するとともに、企画販売・直販などによる販売力の強化、消費者にも理解を求める消費宣伝活動の強化を通じて、地域を支える、活力のある愛媛農業をつくり上げていきたいと考えています。

昨年4月、25年度スタートにあたって、JA全農えひめ全職員とともに、「事業目標の明確化・共有化」、「出向く営農・営業」、「事業の見える化」を3本柱に、農家・JAの理解と協力を得ながら、「3か年計画」「トータルアグリード事業」の着実な実践に取り組むことを確認しました。昨年10月にはJA全農えひめの全職員が出席し、各部署から職員1名が自らの業務について発表する「プレゼンテーション大会」を開き、情報共有と職員の一体感醸成など、職員のレベルアップも着実に進めています。

安倍政権による攻めの農林水産業や米政策の転換が進められる中で、JAグループが地域農業の活性化を進めることが使命だと考えています。農家・JAとともに、JA全農えひめとグループ会社が一体となつて取り組みますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

THE

ねとわーく

「平成25年産「伊予柑」の出荷販売対策と消費宣伝計画

果実課

愛媛県の平成25年産伊予柑の生産予想量（12月10日時点・系統JA分）は、3万6、470t（前年比104%、前々年比90%）で、昨年をやや上回る状況にあります。

生育は9月以降の降雨により果実肥大は順調で平年並みからやや上回る状況にあり酸抜けも良い傾向です。

果実の販売環境は、秋冬3品目の作柄は昨年に比べ多くはないものの、昨年の年明け温州みかんの価格低迷などもあり温州みかんの販売基調に左右される面も大きくなっています。

こうした中、伊予柑は中晩柑類の柱となる品目であり、生産量減少に歯止めをかけるため安定した価格の確保に取り組みます。

25年産の出荷販売にあたっては、高品質果実の出荷を基本とし、出荷時の品質基準の遵守や需給動向に対応した計画的な出荷や的確な産地情報発信に努めるとともに、果実需給調整対策事業および消費宣伝事業を有効活用していきます。

〈主な出荷対策〉

品質基準に基づいた食味・内容重

視の出荷を遂行するため、階級別の貯蔵管理・適期出荷に積極的に取り組みます。

販売開始は基本的に年明けからとし、1月販売は品質基準の遵守を徹底します。

低品位果実は加工仕向け等市場隔離を行うとともに、3月は特にス上がりに注意した出荷を行います。

〈主な販売対策〉

月別の出荷計画量は品質調査結果や伊予柑の需要動向及び販売環境を勘案し、2月販売を中心に精度の高い出荷計画を設定します。

本年産は酸抜けは良いものの消費者は酸を嫌う傾向が強いため、伊予柑全体のイメージを損なわないよう品質基準を遵守した計画的な出荷を行い、特に1月販売は食味重視をした販売に取り組みます。

3L級以上の大玉果は販売後半の品質低下の発生や末端での取り扱いの縮小及び販売アイテムの変更等も懸念されるため大玉果は早期に出荷し、遅くとも2月20日までに販売終了となるよう徹底を図ります。また、M級は3月1日以降の販売とします。

1月8日～29日における毎週水曜日販売分を停止します。

レギュラー品については3月上旬頃には終了し、3月販売は「弥生紅」

の出荷促進に取り組みます。

選果場ごとの出荷状況を的確に把握し出荷残量を踏まえて、市場ごとの残荷量・未仕切り状況を加味して出荷量を調整します。

日量出荷量の平準化の徹底を図り、休み明けは平常時の20%増以内に抑えます。

〈緊急時の対策〉

1月の市場日別平均販売価格が一定価格を下回ったり市場在庫が増加する恐れがある場合は、緊急対策会議を開催し、全JAが公平な出荷調整と出荷停止等の措置を実施します。

〈果実需給調整対策事業〉

各JAの独自対策とあわせ県下全体の対策として、低品位果実の市場隔離を行う加工誘導対策（対象11月21日以降市場出荷用1,000t）に取り組みます。

〈消費宣伝活動〉

効果的な店頭試食宣伝販売活動（延べ2000日）などを通して愛媛いよかんの消費拡大につなげるとともに、首都圏・京阪神・札幌を回る愛媛いよかん大使によるキャンペーン、今年で29回目となる「愛媛いよかん、いい予感」湯島天神合格祈願伊予柑サンプリングイベント（1月11日開催）等を実施し、愛媛いよかんのイメージアップを図ります。



「愛媛のうまいものと無洗米「あらうまい」 が当たるキャンペーンを実施！」

(株)ひめ
ライス

(株)ひめライスは、
ひめライス50周年記念
キャンペーン第3弾と
して、12月23日から2

月28日まで、愛媛県産のうまいもの
と無洗米「あらうまい」が抽選で合
計500名に当たる「あらうまい！
de Very Very THA
NKS(ベリーベリーサンクス)キャ
ンペーン」を実施しています。

キャンペーンでは、安心・安全・
エコな無洗米の利便性やメリットを
PRすることで無洗米「あらうまい」
のブランド力の強化と利用拡大をめ
ざします。

〈キャンペーン内容〉

【実施期間】

平成25年12月23日～平成26年2月
28日

【対象商品】

ひめライス無洗米「あらうまい！」
全商品(もち米含む)

【景 品】

◆Aコース(20名)≪伊予牛「絹の味」
焼肉用ロース(600g)+「あら
うまい愛媛県産コシヒカリ」2kg

◆Bコース(20名)≪「ふれ愛・媛ポー
ク」しゃぶしゃぶ用ロース(約
600g)+「あらうまい愛媛県産
コシヒカリ」2kg

◆Cコース(20名)≪宇和島鯛めし
セット(4人前)+あらうまい愛
媛県産コシヒカリ」2kg

◆50周年特別コース≪全面発熱IH
炊飯ジャー+あらうまい愛媛県産
コシヒカリ」2kg

◆Wチャンス(435名)≪「あらう
まい愛媛県産コシヒカリ」2kg

【応募方法】

ひめライス無洗米「あらうまい！」
商品の米袋裏面左上に付いている
「ひめマーク」を切り取り、A～C
コースは2kg分以上を1口(もち米
1.4kgなら1枚1口)、50周年特別
コースは5kg分以上を1口(もち米
1.4kgなら3枚1口)としてご応
募ください。

応募方法やキャンペーンに関する
詳細は、店頭チラシか(株)ひめライ
スのホームページでご確認ください。

●生活資材課が「エコープマーク品見本市」を開催 「JAくらしの宅配便」会員・利用拡大を進める

JA全農えひめ生活資材課は、「JAくらしの
宅配便」で取り扱っているエコープマーク品
等の利用拡大をめざし、12月5日、砥部町の生
活センターで「エコープマーク品見本市」を
開きました。

同見本市は、詳しい商品説明や試食などを通
じて商品の良さを実感し、より利用を拡大して
もらおうと、昨年度に続き実施しました。

今回は、14のメーカーがブースを設置。JA
の女性部役員と受け渡し担当者約50人が、新規
商品や県内では「JAくらしの宅配便」で取扱
いを始めた馴染みの薄い商品を中心に、各メー
カー担当者から試食や商品試験等を交えて特徴
や使用方法などを学びました。

25年11月、県内全JAに『JAくらしの宅配便』
システムの導入が完了し、事業体制が整いまし
た。今後は共同購入でお届けできなかった商品
も利用できるようになることから、生活資材課
では、各地域でこうした商品研修を開き、会員
獲得と利用拡大につなげることにしています。

「JAくらしの宅配便」は、パソコンや携帯
電話で注文したエコープマーク品や全農ブラ



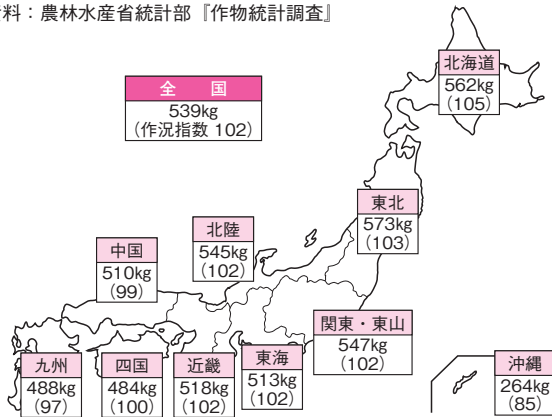
ンド商品など安全・安心にこだわった商品を自
宅に宅配するサービス。県内では24年10月にス
タートし、12月5日現在、4JAで会員数は868
人。「品目数が増え、配達が早くなり便利になっ
た」と好評で利用も伸びており、県内全JAで
取り組みをめざしています。

なお、12月6日はJAの直売所担当者を対象
とした見本市を開き、レイアウトやPOPなど販
促方法の提案なども行いました。

統計BOX

水稻の収穫量(主食用)は818万2,000t —平成25年産水稻の収穫量調査結果から—

図1 平成25年産水稻の全国農業地域別10a当たり収量
資料：農林水産省統計部『作物統計調査』

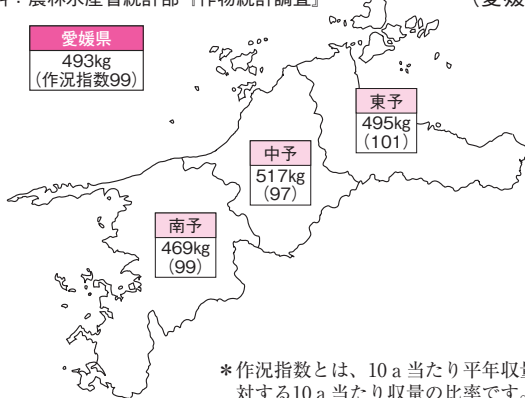


全国の作況指数は102

平成25年産全国の水稻の作柄は、全もみ数が総じてやや多いないし平年並みとなり、登熟はウンカ等の病

「和食」日本人の伝統的な食文化」がユネスコの無形文化遺産に登録されました。その日本食文化の基礎となっているのは、私たちが毎日食べている主食の「米」です。国産米はもち、和菓子、米菓、日本酒などの原材料になり、祝事や正月、収穫祭等の年中行事には赤飯、鏡餅などにも使用されています。そこで今月は、平成25年産水稻の生産状況について見ていきたいと思います。

図2 平成25年産水稻の作柄表示地帯別10a当たり収量 (愛媛県)
資料：農林水産省統計部『作物統計調査』



* 作況指数とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり収量の比率です。

愛媛県の作況指数は99

愛媛県の水稲の作柄は、7月の天候が多照で推移したことから分げつが旺盛であった上に1穂当たりもみ数がやや多かったため、全もみ数がやや多くなりました。しかしながら、

害虫の被害が広範囲に発生したことや高温の影響で登熟が平年を下回った中国、四国及び九州地域を除き、おおむね順調に推移したことから、10a当たり収量は539kg(作況指数102)、収穫量(子実用)は860万3,000t(前年産比101%)が見込まれています(図1)。

中国四国農政局
松山地域センター農政推進グループ

忙しい朝、朝食を抜いていませんか。朝食を抜くと、脳のエネルギーが不足して集中力や記憶力の低下などに繋がります。その不足したエネルギーを補うのにおすすめなのは、お米を食べる「ごはん食」です。農林水産省では、朝食の重要性やごはん食の健康面の効果の普及・啓発のため、「めざましごはんキャンペーン」を行っています。健康な1日のスタートのために、おむすび1個からでも朝ごはんを食べましょう。

登熟期である9月中旬以降の気温が高温で推移したこと及びウンカの被害が広範囲に発生したことから、粒の肥大や充実が悪くなりました。これらのことから10a当たり収量は493kg(作況指数99)となりました。また作付面積(子実用)が1万5,300ha(前年産比100%)であったことから、収穫量は7万5,400t(同101%)となりました。作柄表示地帯別にみると、10a当たり収量は、東予が495kg(作況指数101)、中予が517kg(同97)、南予が469kg(同99)となりました(図2)。このため、収穫量は東予が3万4,000t(前年産比100%)、中予が2万2,800t(同99%)、南予が2万2,200t(同103%)となっています。



星の王子さま

〜本当にたいせつなもの〜

新年おめでとうございます。「この1年みんなが元気で仲良くいられますように」きっとそれがすべての人の共通の願い。近年、遺伝子研究においても「気持ち・心」が体に与える影響が非常に大きいことが裏付けられており、まさに「病は気から」。日々を笑顔で送り、健康に過ごしていきたいですね。

元気で過ごすために食事の在り方が大切であることはいうまでもありません。人間の行為の中で唯一、五感をすべて使うのが食事。「笑顔で食べている時、免疫力が最も高まる」ともいわれています。食事は楽しいことがなにより大切です。

日々のことだけについあたりまえに感じてしまいがちな食卓ですが、計算すると人生で8万回以上もの食事が命を支えていることになります。そう、私たちの体は「食べたもの」でできており、それも「今の体はこの2年間に食べたもの」で成り立っているのだそう。つまり「今の食事が2年後の体を作る」まさに健康とは育むもの。食べ物豊かな現代は「体が喜ぶこと」を知って「選ぶ力」も必要になりました。

そもそも「1日3食」にはどんな理由があるのでしょ。基本的には大人が普段の生活する上で必要なエネルギー源「ブドウ糖」は約150g。1回の食事で摂れる量はだいたい50g、150÷50＝3。これがその理由です。一方、体はいざという時のためにその予備をグルコースという形で肝臓に貯蓄する機能を持っていますが、これも最大50g。1食抜いてもなんとか頑張れますが2食続けて抜くと力が出なくなりやすよね。まず、朝昼晩きちんと食事をとることが元気に日々を送る上で大切です。

次に食事の内容です。日本は世界に類を見ないほどのスピードで生活が大きく変わり、50年前と比較すると動物性たんぱく質は4倍、脂肪は5倍増取している一方、穀物は4割減少しています。昔は肉はあまり食べず、2千4百年間お米を作り、季節の野菜、魚を食べて暮らしてきた、それが日本の風土がそう決めてくれた自然の姿だったわけ。さらに米から酒、みりん、酢を作り、大豆から醤油、納豆、豆腐を、米（麦）と大豆から味噌

中村 和憲

KAZUNORI NAKAMURA

料理研究家&食育アドバイザー。愛媛県立松山南高等学校、上智大学を経て地元松山に戻り、当時家業であったキッチン用品の代理店を営む。アフターサービスとして独自に始めた料理教室が評判を呼び、マスコミ取材をきっかけに南海放送の情報番組「レンジの達人」にレギュラーで出演。その後、人気情報番組「おかデリ」の人気料理コーナーなどを通算11年以上担当。TV・ラジオ・イベント出演や料理監修、フードコーディネートを広くこなす。県内外で食育・人権・子育て・男女共同参画などの講演多数。学校や地域の食育活動にも長年にわたり積極的に取り組む。料理のレパートリーは味噌作り等保存食作りまで幅広い。また、作曲家としてミュージカル音楽などにも関わる。「一人ひとりの今、そして未来を輝かせるために」の思いを持って様々な活動に取り組む。

◆社会活動◆

松山市小中学校PTA連合会顧問・松山市立雄新中学校PTA会長。松山市立双葉小学校PTA顧問・松山市青少年育成市民会議副会長・松山市人権啓発講師。愛媛県男女共同参画ロールモデル・公益財団法人愛媛県学校給食会理事。愛媛大学教育学部非常勤講師・子ども未来プロジェクト代表など。



▲親子料理教室



を生み出してきたのは先祖の知恵でした。大豆を「畑の牛肉」と呼んだのは、先人の優れた感性です。ちなみにWHOが決めている「アミノ酸スコア（食品中のアミノ酸のバランスの良さを数値化したもの）」で大豆は植物の中で唯一百点満点の食品。米を食べタンパク質を大豆や魚で賄ってきた文化。栄養学では世界中の食文化の中でこの組み合わせが最も良い体質を作ることが明らかになっています。

一方、欧米は狩猟民族からスタートしました。肉食文化の中でソーセージ、チーズなども生み出されてきたわけです。つまり自然の風土によって食べ物が決まり、その土地の食文化を育み、こうして何千年もかけて食べ物によって体は作られてきました。髪の色も民族によって異なるのはそのためです。ところが見えないところで「腸の長さ」が異なるのです。植物等繊維質のものを食べてきた日本人やアジア民族は欧米に比べると小腸が2m近く長くなりました。これが変わるまでには5百年、千年という時間がかかるといわれているため本来食文化はあまり急激に変わ

りすぎてはいけません。それが50年という短期間で体の中を通る食べ物が大きく変わったのです。

「伝統食」。今、それが健康づくりの土台であるという原点を見直すことが大切な時。毎日の食事ですべて摂りたいといわれるもの：豆（まめ）、ごま、わかめなどの海藻類、野菜（やさしい）、魚（さかな）、しいたけ等きのこ類、いも類：頭文字をとって「まごはやさしい」と書けば覚えやすいですね。そして味噌汁。味噌ほど何にでもあう調味料はありません。これらを実にして毎日食べれば腸の中にいい菌を増やし、「腸能力」を高め、お通じもよくなります。野菜を無駄にするということもなくなりますね。

食べ物は命。命は命からしか生まれない。38億年前に生命が誕生してから、一度も途切れることなくつながってきた、それが私たちの命。野菜もはるか遠い過去ではもともと私たちとつながっているのです。それを思うと料理を作る時、一つ一つの食材が愛おしく、彼らはきつと語りかけたいことがたくさんあるんだろう、と思うようになりました。それが私の食育のルーツです。

子どもの頃読んだ「星の王子さま」に次の言葉があります。「本当に大切なものは見えない。けれど見る努力をしなければならぬ」。豊かで便利な多くのものに囲まれて生きる現代の私たちにこの言葉は語りかけています。

「食」はなんと深いものなのでしょう！
この1年、日常の食卓に幸せがたくさん訪れますように。

●平成25年度愛媛県総合畜産共進会「肉牛・肉豚の部」「交雑種・乳用種の部」 農林水産大臣賞に土居利行さんと(有)菊間仙高牧場

平成25年度愛媛県総合畜産共進会「肉牛・肉豚の部」「交雑種・乳用種の部」の審査・表彰式（主催（公社）愛媛県畜産協会）が、12月7日、J A えひめアイパックス(株)本社で開かれ、農林水産大臣賞に、肉牛（黒毛和種）の部で土居利行さん（J A ひがしうわ）、肉豚の部で(有)菊間仙高牧場（J A おちいまばり）が選ばれました。

肉豚の部では、格付肉質は上物以上が78.7%で総体的に良好な枝肉が揃いました。(有)菊間仙高牧場は上物以上100%で、重量が大きめで全体のバランスが特に良く、各部に厚みがあり肉量に富み脂肪付着も無駄のない状態で斉一性が高く、締まり・粘りのある肉質などが高く評価されました。同牧場の森田恭章社長は、「大臣賞の名に恥じないよう、安全・安心で美味しい豚肉づくりに取り組みたい」と2年連続7回目の受賞に笑顔でした。

肉牛の部（黒毛和種）には52頭、交雑種・乳用種の部には15頭が出品され、4等級以上が88.5%と昨年を6.9ポイント上回りました。農水大臣賞の土居さんの出品牛は、肉質が各部位申し分なく、チャンピオンにふさわしい枝肉でした。土居さんは、「初の受賞でうれしい。受賞の常連となるように今後も精進したい」と喜んでいました。

表彰式後はJ A 全農えひめ主催の肉牛のセリを実施。kg単価は最高が3,400円（前年比630円安）、平均単価は黒毛和種2,060円（同72円安）、交雑種1,342円（同155円高）、乳用種1,035円（同295円高）でした。



▲大臣賞の土居さん（左）と(有)菊間仙高牧場の森田さん

その他の受賞者は次の皆さん（敬称略・カッコ内はJ A 名）。なお、共進会では、県畜産功労知事表彰3名の表彰式も行われました。

【肉牛の部】◆優等賞▽次席＝堀内博（ひがしうわ）▽3席＝山内莊陸（同）▽4席＝佐伯孝二（えひめ中央）▽5席＝宮本正義（にしうわ）◆1等賞▽首席＝新開忠（おちいまばり）▽次席＝高橋節雄（周桑）▽3席＝村上輝男（おちいまばり）▽4席＝川原孝一（ひがしうわ）▽5席＝谷口貴（えひめ南）

【肉豚の部】◆優等賞・次席＝日野出畜産(有)（にしうわ）

【交雑種・乳用種の部】◆優等賞＝関平畜産(有)（ひがしうわ）

【愛媛県畜産功労知事表彰】（カッコ内は市町）▽佐々木昭三（新居浜市）▽野中勲（東温市）▽梅川光俊（西予市）

●肉用牛婦人研修会 繁殖牛の飼養管理などを学ぶ

愛媛県肉牛生産者協議会「肉用牛婦人研修会」が、12月10日、松山市内でJ A 関係者を含め21人が参加して開かれました。

今回は、全農飼料畜産中央研究所笠間乳肉牛研究室の石田恭平さんが、「繁殖牛の飼養管理について」と題して講演。笠間乳肉牛研究室での業務の紹介や試験事例、研究成果などの説明がありました。また、日本ホリスティック協会認定経絡ヨーガ講師の森山ゆかりさんから、ヨーガによる美容と健やかな心を保てる体づくりを学びました。



●J A 愛媛養豚経営者協議会研修会 生産性向上や安全・安心対策の 取り組みを学ぶ

J A 愛媛養豚経営者協議会は、12月7日、協議会の会員とJ A 関係者など70人余りが参加して、松山市内で研修会を開きました。

研修会では、「農場HACCPの概要」「人工授精の基本と応用」について学んだほか、(株)多田ファームの松本太志さんが同ファームのHACCP取り組み状況について発表。また、系統養豚生産性向上プロジェクト班が取り組んでいる「マテラ給与試験」について、同班のせと風ファーム・鳥生信也さんが報告しました。



●平成25年産夏秋野菜出荷反省会・対策会議

販売額は前年比110%の32億4,400万円

J A 愛媛野菜生産者組織協議会と J A 全農 えひめ野菜花卉課は、11月20日、平成25年産夏秋野菜出荷反省会と26年産の生産対策会議を開きました。

25年産は、順調に産地が切り替わり堅調な販売でスタート。7月下旬から8月上中旬は各産地増量により市況は一時下げたものの、8月中旬以降は天候不順等もあって、全体を通して品薄傾向の中で前年を上回る堅調な相場展開となりました。愛媛産は、梅雨期の曇天・低温により若干の出遅れはあったものの、梅雨明け以降は前年を上回る出荷ペースで推移。8月中旬以降は高温干ばつによる樹勢の低下や8月下旬の降雨等で、きゅうり・ピーマンなど極端な数量減となりました。

主要10品目の販売実績は、共販量が前年比97%の10,575 t、販売額は前年比110%の32億4,400万円でした。

市場・量販店と連携して期間及び週間値決め、業務用等への積極的な販売に取り組み、安定価格と売り場確保につなげる企画販売は、計画（61企画）を上回る72企画を実施し、取扱額は約2億円（前年比115%）でした。

品 目	平成25年産出荷実績		前年比（%）		
	共販量(t)	金額(千円)	共販量	金額	単価
夏秋きゅうり	4,988	1,172,978	99	114	115
インゲン	88	68,207	79	92	116
アスパラガス	282	294,910	100	102	102
伊予なす	1,127	264,221	101	131	129
松山長なす	225	57,424	90	109	121
絹かわなす	170	41,008	58	76	130
枝豆	72	37,791	87	96	110
夏秋トマト	2,457	824,095	99	99	100
ミニトマト	247	139,880	94	98	104
ピーマン	921	343,957	93	142	154
合 計	10,575	3,244,472	97	110	—

期間中は、京阪神地区と県内で7～8月を販促強化月間として愛媛フェアの実施等を通じてレシピ提案などアピール力のある消費宣伝活動を展開し売り場確保と消費拡大に努めたほか、「えひめの食」企画のTV・ラジオ番組などメディアを通じての情報発信、収穫体験・料理教室などの食育活動を進めました。

26年産に向けて、市場からは面積・生産量の確保・拡大、長期安定出荷等が要望されました。

●「NHK東日本大震災義援金」に寄附11万8,440円を贈りました。

J A 全農 えひめは12月2日、諏訪玄県本部長がNHK松山放送局に原田達也局長を訪ね、「東日本大震災義援金」として、イベントを通じて集まった11万8,440円を寄附しました。

義援金は、11月2日に松山市で開いた「レインボーフェスティバル in えひめ2013」で、全農 えひめとグループ会社の役職員が持ち寄った善意の品のチャリティバザーと「ふれ愛・媛ポーク」セリ販売の売り上げ金全額。同義援金は、「中央共同募金会」を通じ、被災者の生活支援や復興支援にあてられます。

J A 全農は、全農グループの全国統一的な社会貢献活動の一環として、NHK各放送局を窓口「東日本大震災義援金」を寄附しています。



▲原田達也NHK松山放送局長（右）に義援金を手渡す諏訪玄県本部長

●社会福祉協議会に贈呈 児童福祉施設に農産物を贈る

J A 全農 えひめは、12月11日 J A 愛媛で、社会貢献活動の一環として愛媛県社会福祉協議会に、「ひめライス」のもち米660kgと「POMアシタノカラダみかんジュース」など95ケースを贈りました。贈呈品は、同協議会を通じて県内14の児童福祉施設に届けました。

贈呈式では、諏訪玄県本部長が同協議会の森憲宣常務理事に目録を手渡し、森常務からは「子ども達も毎年心待ちにしています」とお礼の言葉とともに、J A 全農 えひめに感謝状の贈呈がありました。

この取組みは、協同組合の相互扶助精神のもと、施設の子どもたちに明るいお正月を迎えてもらおうと、昭和59年から毎年実施しています。



▲諏訪県本部長（左）から森常務（右）に目録を手渡しました。

●畜産に関する意見交換会

TPP重要品目死守と畜産経営安定対策を要望

愛媛県畜産振興連絡協議会は、12月5日、松山市内で自民党県連畜産振興議員連盟と「畜産に関する意見交換会」を開きました。

意見交換会は、平成13年から毎年行っており13回目。今回も、県内4畜種（肉牛・養豚・酪農・養鶏）の生産者組織代表らが、県議会議員22人にTPP交渉における重要品目の死守と畜産経営安定対策に向けた取り組みなどを要望し、意見交換を行いました。

連絡協議会の竹内日出男会長は、「配合飼料価格が過去最高となるなどコスト高で畜産経営は非常に厳しい。TPP交渉については、従来の方針に基づき、今後も引き続きご支援ご協力をお願いしたい」と要望しました。

TPP問題について県議からは「国会議員に確認しても資料入手さえできず情報がない状況の中、委員会決議を尊重するよう申し入れしている」「12月の県議会で意見書を出す準備を進めている」と回答がありました。

畜種別の主な要望は次のとおり

◆愛媛県畜産振興連絡協議会＝TPP交渉での重要品目の死守および配合飼料価格安定制度の見直し、県内産畜産物の消費拡大運動

◆愛媛県肉牛生産者協議会＝「肉用牛肥育経営安定特別対策事業」等の県費助成の継続、毎月



交付の継続と予算確保の働きかけ。「新たなブランド牛」開発について農家所得向上に向けた消費者への理解醸成

◆J A 愛媛養豚経営者協議会＝「養豚経営安定対策事業」の仕組みづくりと事業の法制化および県費助成の継続

◆愛媛県酪農経営者協議会＝愛媛ブランド牛代理母牛モデル育成事業の継続と県内産牛乳の消費拡大協力

◆愛媛県採卵養鶏経営者協議会＝鶏卵生産者経営安定対策事業の見直しと長期的な養鶏経営安定への法制度化への働きかけ。消費促進活動や加工品開発に関する奨励措置・対策の一層の強化

●11月29日＝「いい肉の日」からスタート！

消費拡大めざし、農協グリルで「肉の日」メニュー提供

松山市のJ A 愛媛地下1階にある農協グリルで、毎月29日の「肉の日」に愛媛県産の豚肉と牛肉を使ったランチメニューを提供し、利用者に消費拡大を呼びかける取り組みが始まりました。毎月29日の営業日（次回は1月29日）には、J A 全農えひめが協賛して、『ふれ愛・媛ポーク』と「伊予牛『絹の味』」を使ったメニューが提供されます。

この取り組みは、愛媛県産肉のPRと消費拡大をめざし、J A 全農えひめが11月29日＝「いい肉の日」をきっかけに同店に働きかけて実現しました。

11月29日は、『ふれ愛・媛ポーク』をたっぷり使った「ブタ味噌炒め丼」にミニサラダ・スープ・漬物をワンコイン（500円）で販売。通常30食限定のランチメニューですが、「いい肉の日」にあわせて50食販売され、昼過ぎには完売。予想以上の結果にJ A 全農えひめ畜産部は、「こ



うした取り組みを通じて、愛媛のブランド肉の消費拡大につなげたい」と話しています。このほか、12月は県内販売協力店のべ20店でSP（セールスプロモーション）レディによる店頭試食宣伝を実施し、ブランドPRと販売拡大に取り組みました。

なんでもBOX

●JA全農主催「TACパワーアップ大会2013」 JAおちいまばりと黒川直樹さん(JA西条)が全国表彰される

11月28日と29日の2日間、JA全農主催「TACパワーアップ大会2013」が横浜市で開かれ、全国で7JAと9人のTACが表彰された中、愛媛のJAおちいまばりがJA表彰、黒川直樹さん(JA西条)がTAC表彰を受賞しました。

6回目を迎えた今回の大会は、JAの総合力を発揮した担い手編事業提案と担い手の経営改善をテーマに、全国から約500人が出席。受賞した優

良事例の報告などを通じて全国の活動成果を共有するとともに、担い手と一緒に地域農業を元気にするためTAC活動を強化・推進していくことを確認しました。



▲(左から)表彰されたJAおちいまばりの渡部浩忠常務と黒川さん

TPPの問題や国会決議実現を訴えています。

12月7日からシンガポールで開催されたTPP(環太平洋連携協定)閣僚会合は、難航分野の課題を詰め切れず、年内交渉を断念し、1月に再度閣僚会合を開くことを確認して閉幕しましたが、安倍首相も交渉の早期妥結に向け協議を進めるよう指示するなど、引き続き緊迫した状況が続いています。政府には引き続き、農産物の重要品目の聖域確保を求める国会決議などを踏まえ、毅然とした対応が求められています。

この閣僚会合に先立ち、JAグループ愛媛は、11月16日、松山市内で「TPP断固反対・水田農業政策確立緊急愛媛県要請集会」を開催。80人が参加し、国会議員らにTPP交渉に際して国会決議を遵守するよう要請しました。

12月3日には、東京都千代田区の日比谷野外音楽堂で、農林水産団体や消費者団体など3,500

人が参加し、「TPP決議の実現を求める国民集会」が開かれました。愛媛県からも28人が参加し、県選出国会議員に対するTPP決議実現を求める要請も行いました。

また、12月5日には、県議会の各会派に対して、「TPP決議の実現を求める緊急要請」を実施しました。

12月6日、食とくらしと地域を守るネットワーク愛媛とJA愛媛青壮年連盟、JAえひめ女性組織協議会は、12月6日松山市駅で、約50人が参加して、TPP決議の実現を求める街宣活動を行いました。県内JAも12月5日～7日にかけて、JA本所や直売所等でTPP反対の街宣活動を行い、TPPの問題点について訴えました。

12月13日、愛媛県議会は全会一致でTPP交渉に関する意見書を採択しました(5回目)。

農畜産物のPR・販促活動を実施

JA全農えひめ果実課は、11月末～12月中旬にかけて、出荷最盛期を迎えた愛媛オリジナル品種「紅まどんな」の消費拡大とブランド認知度の向上にむけて、県内や首都圏・京阪神で消費宣伝活動を実施しました。

県内では、フジグラン松山などで愛媛みかん大使らが試食宣伝活動を実施。美味しさや特徴をPRし、「お歳暮に最適な『紅まどんな』」の利用を呼びかけました。

11月22日～24日は、松山空港2階出発ロビーで県イベントに参加。愛媛みかん大使らが県内

外の利用客らに試食を交えてみかん・紅まどんな、柿などを販促・PRしました。

また、JA全農えひめ畜産部は、11月23日～24日、えひめまつりや産業まつりに出展し、「ふれ愛・媛ポーク」串焼きや伊予牛「絹の味」焼肉を実施。「ひめとんボーイズ」も参加し、イベントを盛り上げました。



▲えひめまつりや産業まつりでは「ひめとんボーイズ」も参加し販促活動を実施。

JA松山市福音寺青空市 ～JA松山市～



インフォメーション

- TEL/089-976-2727 (JA松山市福音寺出張所)
- 営/7:00～13:00 (夏季は6:30～)
- 休/月・水・金曜、12月31日～1月3日
但し、12月30日(月)は営業
- 住/松山市福音寺町44-3

- URL/http://www.ja-matsuyama.or.jp/

- その他の店舗/JA松山市小野青空市、JA松山市堀江ふれあい市
- 榊松山生協/おいでな菜家ひさえだ、おいでな菜家ゆやま
- 榊松山生協の生産者コーナー/石井店、余土店、西雄郡店、斎院店、三津店、久米店、椿店、堀江店、北伊予店、岡田店、川上店



▲朝一番のレジ前は大混雑。早起きは三文以上お得！



▲レジで中身をちょっと拝見。おひとり様で複数カゴたっぷりご購入



▲農産物は生産者を顔写真入りで紹介



▲店舗前は自転車の行列

晴れわたる青空の下にテントを張った青空市からスタートした直売所「福音寺青空市」は、地元ですつと愛され続けて15年以上となりました。今では立派な建物を構えて、出荷会員、売り上げとともに増えています。商品は農産物が中心で、安心・安全・新鮮なのはもちろんですが、出荷者多数により価格競争も激しく、よいものがお値打ち価格で求められるといううれしさも加わって、朝7時前から開店を待ちわびる長蛇の列が続きます。

四季折々に季節を彩る農作物たち、冬は鍋物の具材やミカン各種、春はソラマメ、夏からは秋は松山長ナスや果物、年間を通して花の種類が豊富なのも特徴です。そして、おかあさんが腕によりをかけた巻きずしなどの惣菜類には固定客がつくほどの人気ぶりです。

地元の農産物を中心に展開しているので、天候により品ぞろえやボリュームが左右されるといふ苦労もありますが、明るい笑顔で朝から元氣よく「福音寺青空市」はオープンです。



【広域map】



▲「堀江ふれあい市」では、併設の加工所「クックふれあい」のできたてアツアツ惣菜を待ちかまえて人が集まってくる

おひさまいち

太陽市 ~JAえひめ中央~



インフォメーション

- TEL/089-913-7707
- 営/8:30~19:00 (但し、12月31日は~13:00)
- 休/1月1日~4日のみ
- 住/松山市湊町8丁目120-1
- URL/ http://www.ja-e-chuo.or.jp/public_html/ohisama/ohisama_index.html
- その他の店舗/ふれあい市みうち、北吉ふれあい市



▲いつの季節も野菜がモリモリ



▲量り売りがうれしい、「愛彩広場」の惣菜類

一角にある「愛彩広場」はJAえひめ中央女性部、つまり農家のおかあさんたちの手づくり惣菜コーナーです。食材は「太陽市」で仕入れ、カラダにやさしく、愛情たっぷりのおかず類が次々と 올라가ってきます。

併設の「Hinata Cafe」は

紅まどんなや伊予柑など、「太陽市」な

らでは旬のフルーツを使ったジェラ

ートが楽しめます。冬場はホットな野菜

スープもありますよ。

を告げる直売所です。

など、時期折々の地域特産農産物が季節

梅、中山地区の栗、小田地区の肉厚椎茸

リタケ/コヤブドウ、砥部町七折地区の

北条地区から庄大根、伊台地区の朝掘

売れ行きです。

揃えて、贈答用など箱買いも飛ぶような

栄えとなりました。種類も量も多数の品

良好の園地に育つミカン類が上乗の出来

今冬も島育ちをはじめとする日当たり

魚も扱う県都松山の食の台所です。

人、農産物はもちろん地場産の精肉、鮮

は中予地域を網羅する出荷会員約800

「JA松山駅」のほど近くにある「太陽市」

おひさまいち



▲本日も千客万来、太陽市



▲商品とお客でにぎわう店内



▲ドレッシングにウインナーは「太陽市」自慢のオリジナル



▲「Hinata Cafe」の開放的なオープンテラスでジェラートをどうぞ



▲精肉ラインも充実



●「ひめとんボーイズ」爽やか、かつこい！「うれ愛・媛ボーイズ」の生産者で結成しているのが、またいい。歌まで自分たちで作詞・作曲してすごく意欲を感じます。女性のグループは全国にたくさんいるけど、男性のグループは珍しいと思います。こんなふうな地方を元気にしてくれる人たちがいるのは、うれしいです。応援しています。これからますます活躍されますように。

私事です。先日孫娘たちの初めてのお遊戯会がありました。義母の法事と重なって見に行くことはできなかったけど、DVDを送ってもらいました。下の孫娘は最初から最後までずっと泣いて、全然踊らず、最後の決めポーズだけは何とかできました。上の孫娘は完璧な出来でした。2人とも、とってもかわいかったです（ばばバカ）。来年はぜひ見に行こうと思っています。

（愛南町・太田 かすみさん）

●テレビ愛媛杯ママさんバレーボール大会も37回目になるんですね。私たち大西チームも30年位前に優勝しました。今はひめリースも協賛しているんですね。優勝した久米クラブの写真を見て、「私たちもあの頃はこんなメンバリーのように若かった」と。私のストップで優勝が決まったんです。

ミカン農家なのでミカン関係の記事には関心があります。

（今治市・乾 律子さん）

●エッセー「ワクワキドキ第二の人生Ⅲ」の中で、河上たずみさんは農業従事者の高齢化の問題に触れて、「労働に見合った収入が確保されてこそ若い後継者が育つのでは」と言っておられますが、全くそのとおりだと思います。これは単に農業・農村の問題ではなく、農は国の基、安全・安心の農産物を自給するという大きな立場で考える必要があるのではないのでしょうか。先ほど触れた農村の過疎・高齢化の問題で、昔から農村に受け継がれてきた伝統的な行事などが引き継ぐのが難しくなっています。そんな中でいろいろ工夫して、それが引き継がれているようなところがあれば、取り上げてほしいと思います。

（内子町・富永 嘉明さん）

イベント情報

〈七草粥無料配布〉

■JA西条「七草粥」無料配布イベント

全国有数の生産量を誇るJA西条は、「西条の七草」をPRしようと、1月7日（火）、西条市と新居浜市の「ときめき水都市」4店舗で「七草粥」が無料でふるまわれます（開店時間～。雨天決行）。また同日は、JR西条駅前午前10時から、「七草粥」を無料配布します（雨天決行）。いずれも数量限定のため、なくなり次第終了となります。

■東温市のJAグリーンえひめ「七草粥」お接待

1月7日（火）午前9時から出荷会員が地元でとれた七草を「七草粥」にしてお接待します。200食限定のため、なくなり次第終了します。

〈七草粥の習慣について〉

正月七日（人日（じんじつ）の節句）の朝に、初春の野で摘んだ七種の若菜を入れて炊いた粥を食べる習わし。若菜の生命力を食し、邪気をはらうということで、室町時代から続けられているといわれています。

●農の風景「伊予美人PRイベント」を読んで。なぜ芋炊きのダシに鶏肉を使うのですか。若者に向く牛肉を使ったら多くの人が食べると思いますが。山形の芋煮会などすごいです。私も鶏アレルギーなので、私の分はいつも牛肉で別に作ってもらいますが、牛の方が美味しいと言っている方が食べ、私の分がなくなるほどです。

（大洲市・峯 乾一さん）

★編集部より：愛媛の郷土料理として、秋には県内各地で芋炊きが盛んです。中に入れる具材やダシも場所によって少しずつ違うようですが、ダシに牛肉などを使っているところがあるので、どうでしょうか？勉強不足ですみません。皆さんからの情報提供をお待ちしています。

●レインボーフェスティバルは、写真が多くて、楽しい雰囲気伝わって来ました。婚活事業はやられていますか？

（東京都大田区・K・Sさん）

★編集部より：県内でもJA主催等で婚活イベントが実施されているようです。12月8日には、JA愛媛たいきで開催されました。そういった情報が入れば、イベント情報として紹介したいと思います。

今月のクイズ

JA全農えひめなどは、1月25日と26日の2日間、いよつ高島屋8階で、「えひめみかん祭り」を開催します。今年で何回目の開催になるのでしょうか？

〇〇〇〇

プレゼント

クイズに正解した方の中から抽選で、図書カード1,000円分を10名様にさしあげます。

応募方法

折り込みハガキにクイズの答えと本誌に対するご意見・感想などをお書き添えの上、ご郵送ください。

締切り

平成26年2月17日（当日消印有効）

発表

「あぐり〜ど」3月号で発表します。

当選者発表

11月号の答えは「伊予美人」でした。たくさんのお便りありがとうございました。厳正な抽選の結果、次の10人の方に図書カード1,000円分をお送りします。

越智 孝久さん（西条市）	沖中さわえさん（大洲市）
岡 葉子さん（八幡浜市）	藤田亜紀子さん（今治市）
田井能雅昭さん（東温市）	曾根知佐土さん（四国中央市）
奥河 敏江さん（上島町）	矢野 吉信さん（大洲市）
渡辺 美枝さん（鬼北町）	越智 良和さん（西条市）

編集後記

★新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。

新春企画では、産地基盤強化に向けた「トータルアグリ」事業の状況と26年度の取り組み方向について、諏訪県本部長インタビューを紹介しました。ご一読ください。

全国一の生産量を誇る愛媛の柑橘を一堂に集めて、1月25日から「えひめみかん祭り」が開催されます。多数の皆様のご来場をお待ちしています。

（正直）



NOW NOW

COOKING

今月の素材

キウイフルーツ



常温&リンゴと仲良く袋に入れると
硬いキウイは、早くおいしく食べ頃に！

▶(左) キウイのマチエドニア、(中) キウイのサラダ、(右) キウイのスムージー



指導／学校法人愛媛学園（愛媛調理製菓専門学校）大西 望先生

キウイのマチエドニア

〈材料・4人分〉 ※1人あたり約124kcal

グリーンキウイ	2個
ゴールドキウイ	2個
水	大さじ3
砂糖	大さじ3
① レモン果汁	大さじ2
ユズ果汁	大さじ2
ミント	8枚

〈作り方〉

- ① キウイは皮をむき、縦に4つ割りにし、イチョウ切りにする。
- ② ①のシロップの材料を合わせておく。②に①を漬け、半日位おいてからが食べ頃。
- ③ 器に盛り、ミントを飾る。

キウイのサラダ

〈材料・4人分〉 ※1人あたり約53kcal

レタス	2枚
赤タマネギ	1/2個
グリーンキウイ	1個
ゴールドキウイ	1個
リンゴ	1/2個

〈作り方〉

- ① レタスは適当な大きさにちぎり、赤タマネギはスライスし、それぞれ水にさらす。
- ② キウイは皮をむき、リンゴは芯をとり、くし型に切る。
- ③ 皿に盛り合わせ、好みのドレッシングをかける。

キウイのスムージー

〈材料・4人分〉 ※1人あたり約157kcal

キウイ	2個
豆乳	600g
ハチミツ	大さじ4

〈作り方〉

- ① キウイは皮をむいてざく切りにし、ナイロン袋に入れて冷凍する。
- ② 「飾り」用の実を少し残した①とハチミツ、豆乳を一緒にミキサーにかける。
- ③ ②をグラスに注ぎ、キウイの「飾り」をのせる。

今年の“旬”はひと味ちがう！

毎年大人気の「愛媛みかん 旬」が、今年はさらにこだわりを詰め込んだ「完熟愛媛みかんの旬搾り」になって新登場！
完熟した愛媛県産うんしゅうみかんのみを使用した
ストレート果汁100%のジュースです。
例年の「旬」よりも、皿に美味しさにこだわった「旬搾り」。
ぜひ完熟の美味しさを味わってください。

POM 完熟 愛媛みかんの旬搾り
1Lビン/6本入
3,150 円(税込)

通販限定 3,000セット限定 期間限定

株式会社 えひめ飲料 〒791-8603 松山市安城寺町478番地
TEL:089-923-1500 FAX:089-924-0304
<http://www.ehime-inryo.co.jp>
(通販専用) <http://www.pom-j.com>

第36回)

えひめみかん祭

Mikan Love letter

つくる人から
たべる人へ・・・
みかんのラブレター♡

2014 1/25 sat・26 sun
いよてつ高島屋8階
スカイドーム特設会場 午前10時～午後7時
※26日(日)は午後6時まで

展示&販売会

果実コンクール・愛媛かんきつと加工品販売

県内各地より選り抜かれた多彩な果実と加工品が勢揃い。
果実コンクールは予約販売ですでお早めにお越しください。

試食

高級かんきつ-紅まどんなをはじめ、普段味わうことが
できない品種が勢揃い!! ※各品種がなくなり次第終了



今年も、榊形 浩人・作道 泰子が
みかん祭りを盛り上げます!

みかん餅つき

みかん祭り恒例、
大人気のみかんのお餅!

○25日(土)午後1時30分～ ○午後4時
○26日(日)午後1時30分～ ※先着100名様

無料

みかん綿菓子

午前10時～午後5時まで

ポンジュース蛇口

午前10時～午後3時まで

無料

ご利用券

※H26年1月25日・26日有効
※材料に限りがありますのでお時間
によってはご利用できない場合が
あります。

楽しく学べる!

みかんクイズ

愛媛の人なら知らないかん!!

○正午～
○午後3時～

参加
自由

ステージ演奏

保育園・小羊園の園児による
ちびっこ和太鼓

25日(土)午前10時30分～

みかんの皮アート

「愛のオレンジロード」紹介

午前11時～

主催: 愛媛県 JA全農えひめ 愛媛県果樹研究同志会 愛媛県女性果樹同志会 愛媛新聞社

後援/愛媛県議会、愛媛県農業会議、愛媛県農協同組合中央会、愛媛県信用農業協同組合連合会、愛媛県農業共済組合連合会、株式会社 日本政策金融公庫松山支店 農林水産事業
JA/バンクえひめ農林中央金庫松山推進室、愛媛県果樹生産出荷安定協議会、全国共済農業協同組合連合会愛媛県本部、えひめ愛フード推進機構
協賛/いよてつ高島屋、NHK松山放送局、南海放送、テレビ愛媛、あいテレビ、愛媛朝日テレビ、FM愛媛、読売新聞松山支局、朝日新聞松山支局、毎日新聞松山支局、産経新聞松山支局、日本経済新聞社松山支局
日本農業新聞、時事通信社松山支局、共同通信社松山支局、日刊工業新聞社松山支局 (順不同)